

令和7年度 第1回磐田市総合教育会議 会議録

日 時： 令和7年6月5日(木) 午後3時30分～午後5時

会 場： 磐田市役所 本庁舎4階 第2会議室

出席者： 市長、教育長、鈴木好美委員、秋元富敏委員、阿部麻衣子委員
(出席者5名)

事務局： 企画部長、教育部長、子ども部長、政策推進課長、教育総務課長、子ども未来課長、政策推進課総合戦略グループ長、教育総務課総務企画グループ長、子ども未来課子ども政策グループ長、担当

傍聴者： なし

【会議次第】

1. 開 会

2. 市長あいさつ

3. 協 議 事 項

- (1) 令和7年度当初予算の概要・組織機構について
- (2) 教育大綱・「磐田の教育」道しるべ・子ども憲章について

4. 閉 会

[協議の主な内容]

発言者	発言内容
市長	<p>私も2期目に当選することができまして、議会は来週からで、所信表明というものを発表することになります。今までの路線は継続しながら変えるべきところは変え、良くするところはしっかり良くするといった形でやっていきたいと思っています。</p> <p>今日は、令和7年度初めてですので、いつもやっていますように、当初予算でどんなことを考えているのかということをご説明する時間と、それからもう1つは教育大綱の定期的な見直しということで、改選もありましたし、総合計画の見直しの時期でもありますので、見直していきたいと思っていますから、今日はこの2点を主な議題として進めていきたいと思っています。</p>
事務局	<p>この後の会議の進行は議長となります市長にお願いしたいと思います。</p> <p>令和7年度当初予算の概要・組織機構について</p>
市長	<p>令和7年度当初予算の概要と組織機構について、話をしていきたいと思えます。暑くなってきました、熱中症がとにかく心配です。色々なまちが色々なソフト、ハード両面から対策を立てており、7月の中旬まであと1か月半です。少なくとも小学生には、もうちょっと教育委員会から発信していただきたいです。「日傘を差していいよ」という案内だけでもしていただきたいですし、きとお茶とかは授業中に飲んでよいとなっていると思いますが、「飲んでいいよ」ということを言っていただきたい。とにかく「してもいいよ」ということの声掛けを意識的に教育委員会から発信していただきたいです。例えば、焼津は、冷たいタオルとか、冷却具をランドセルにつけて持ってくるとか、教室に冷やして置ける冷蔵庫を設置していることもあるようですので、まずは、「これをやっていいよ」ということを早い段階で出していただけるとありがたいと思います。</p> <p>それから2点目は、昨日まで2日間東京で全国市長会がありまして、久しぶりに朝、東京にいる時間がありました。その時に子どもたちの通学の姿を少し見まして、正直大変だなと思えました。もしかすると都会で生活するには、たくましくないといけないのかもしれませんが、朝から地下鉄でランドセルを背負って、小学校低学年が1人で登校しているところを見ると、緑はありますが、土や風に触れる機会は本当にないなと思えて。さらに多くの大人を縫って歩いている子どもたちを見て、やっぱり磐田だったらすれ違う人とか立ってくれている人たちもいて、人間形成の中で、やっぱり田舎というか、地方の良さがあるなと思えます。逆にそういうことを僕たちがどう武器にしていくかと、子どもたちを見て改めて感じました。</p> <p>それから今の話の延長線上ですが、その前の週は首都圏交流会がありまして、</p>

これは職員に一部シェアしましたが、都会はとにかく選択肢が広過ぎて保護者がすごく悩むということです。地方はだいたい地元の公立高校でほとんど選択肢がないからいいのですが、都会は地下鉄でさまざまなところへ行けるわけですから何を選択したらいいかわからないということから、磐田の暮らしをシンプルな暮らしができるまちと表現してくれた人がいて、なるほどと思いました。自分たちは選択肢がないことは課題と少し思っている節がありましたが、適度な磐田の暮らしやすさをいかに広く情報共有させていただこうかと思っています。

では、当初予算のポイントをお話していきたいと思います。安心できるまち、人が集まるまち、私が1期目の4年間ずっと掲げてきたことです。子どもたちも高齢者も働く世代もどんな世代であっても安心できる、安心なまちにします。1人1人が安心できるまちにしていかなければいけないということで、13,000人の子供たちと保護者たち、2倍すると26,000人ぐらいの1人1人が安心できているかどうかということ想像力を働かせながら、情報発信したり、政策をつくったり、事業を起こしたり、施設を整備することを土台にして、人が集まる磐田市にしていきたいと思います。その上で市民の幸せ、ウェルビーイングですね、最近話題のウェルビーイングと誇りを感じられるシビックプライドが感じられて、それで、将来に希望が持てる持続可能なまち、サステナブルなまちを目指しましょうというのが1期目の私が言ってきたことです。そういう中で共創ということ 키워ドに入れてきました。これは、民間企業が共創というキーワードを大分使い始めまして、昔は自社のリソースしか活用することがありませんでした。しかし、今は、人にしても、設備にしても、土地にしても、民間企業も共創と言ってやっているわけで、行政や自治体もおさら共創だなと思います。磐田市のフィールドの上に乗っているものはもとより、フィールドに乗っていない、例えば、東京とのつながりとか、企業で、ヤマハ発動機のファンになってもらっている人とか、ジュビロ磐田のファンとか、ジュビロ磐田のプラットフォームとか、全て私たちに関係するものは全部生かせるということも含めて共創だということで、共創で未来を育む投資予算ということを行っています。そして、四つの重点戦略は、「地域経済活性化」と「子育て・学びの環境」、「緑とにぎわい」、そして「共創で盛り上げる市制20周年」、この辺りは後から細かく話をしていきたいと思っています。全体の構成でいきますと、869億ということで、前年度比から127.3億円多い予算を組んでいますので、特に一般会計と特別会計と企業会計を合わせると1,591億円という過去1番大きなプラス137.3億円という予算を組ませていただきました。これで、もしかすると全国1番の上昇率かなと思いましたが、とんでもないまちがあるということです。前年度比から、うちは20パーセント近く上がっているのにそれ以上に上がっている自治体があるということで、要は、今年度は全国どこも右肩上がりぐっと上がっている予算編成をしているということです。特にうちなどは海岸堤防の整備事業が85億円の今年度予算を付けているので、前年度比から見ても50億円です。127.3億円のうち50億は防潮堤、それから42億が学校です。

学校の予算額は52億ということで、単年度ですので、全部足していくと、教育部長いくらでしょうか。

教育部長

80億円くらいです。

市長

その他に今年度の学校関係は11億で初めて空調設備が入っています。財源もあると思いますので、全部が市の単費ではないということで、もちろん学校もそうです。80億の半分ぐらいは国から持ってくると思います。ということでお金をかけ集めながらやらせていただいているということで、127億上がりましたが、すべてが市の負担というわけではありません。それから、保育園や児童手当、消防庁舎がございます。スライド5ページを見ると、ズドンと上がっているように見えます。基金残高はどんどん減ってしまっていますが、財政調整基金という貯金だけでも54億円ありまして、まずまず何とか規律を守りながらやっているということです。それから市債、借金も増えていますが、これも読みどおりということでやらせていただいています。

ここから先は個別の共創について少し話をしていきたいと思います。地域経済活性化の共創と言いまして、おそらく教育委員会の皆さんやこども部関係の皆さんは、私たちは関係ないと思われるかもしれませんが、何のためにやっているかという、将来磐田で学んだ子たちが帰ってきたくなるような産業を誘致したり、働きたくなるような場所をつくったりとか、情報発信したいというところからやらせていただいています。なので、例えばスタートアップ企業と市内企業とのマッチングというふうに書いてありまして、経済産業省出身の方に磐田市に来てもらいまして、新しいスタートアップ企業を東京から誘致して、この地域で働けるようにということで、やらせていただいています。東京に行かなくてもここで働けるいろんな企業がありますので、スタートアップを少し生み出していこうということをやらせていただくこうとしています。特に磐田市はヤマハ発動機さんやホトニクスさんやスズキさんなど、昭和から平成の頭ぐらいにかけての大手企業があるということで、僕は、平成の間に大きな企業が来てくれたとか、誘致できたとかは、あまりないような気がしていますので、次の代の種まきとして、ここは誇れる会社だということをつくっていくということでスタートアップ誘致を今やらせてもらっています。

それから中小企業の脱炭素投資の支援ということになると、この脱炭素投資はあまり皆さん関係ないと思われるかもしれませんが、むしろ今の子どもたちにとって、企業の経営者が環境問題に関心を持っているかどうかをすごく意識しているのです。就職先を選ぶときに意識の高い子ほどです。だからこそ、中小企業の経営者の皆さんに脱炭素投資をやらなければいけないということを伝えてやらうようにしています。だからこれも実は、次の時代にいい経営をしてもらうための先行投資のつもりです。それとアウトオブキツザニアは、子どもたちのためでもありますし、子どもたちにどういうプロモーションを企業の皆さんがやってくれるかです。実は子どもたちのためというのはあるのですが、企業の皆さんが子どもたちにうまく自分たちの会社の働き方や生き方をPRする場だと思っていますので、子どもの就業体験、ただ子どもたちのための授業ではないということをしっかり伝えているところです。子どもたちからすると学校の先生は分かりやすいです。

身近ですから。「大変だな」ときっと思っているとか、やりがいがあるなど思うかもしれません。普通の民間企業はそうはいかないので、それも含めて、PRを頑張っていたきたいです。

学校給食の地産地消は一刻も早く進めていきたいと思っていますが、給食関係者から物価高の中どうやってやりくりするのかといった意見が届いていて大変ありがたいと思っています。お米が上がっている中で、泉大津市の取組が非常に話題になっていまして、全国ニュースになっています。給食用のお米を産地から直接調達しており、お米を顔の見える関係のある自治体から直接購入しています。要は首都圏と関西圏の中心街は畑がそんなにないから、顔が見える自治体から買いたくて、うちはこんなに畑、田んぼがあるのに他のところから買っているのですから、何をやっているのだという話で、せっかくならやはり磐田で作ったものを磐田の人たちには食べてもらいたいと思っています。

放課後児童クラブの民間委託化は賛否両論いろんな声が出ていますが、実施したことについて僕は決断を間違えていなかったと思っています。やり方についてとか、民間事業者との対話というのはしっかりやっていかなければいけないと思っています。これは教育委員会に頑張っていたきたいと思っています。

次にプールの活用検討で水泳の授業。それから、磐田北小の校舎既存整備構想と富士見小も入ってきます。両方とも設計に入るので一歩前に進むことができますと思っています。あとは校内教育支援センターの拡充ということで、1,900万円ついていますが、これについてはさらなる拡充をしようと思いましたが、現場でしっかり管理をしていただくということでお願いしたいと思っています。

緑とにぎわいの共創は、学校の中にもきちんと木を植えてくださいということを言っています。これは別に学校の予算ではなくて地域の皆さんや地域づくり協議会に少しお願いするとか、学校の周りの企業さんをお願いをするとか、そういうことをすれば、植えてくれるのではないかと思います。最近では、管理にお金がかかるため、学校の木を切ってしまうことが多いと思っていますが、全く緑がない学校というのは少し考えにくいです。これは今だけではなくて、30年後や50年後に対するプレゼントだという思いで、少しずつ皆さんに協力してもらって正に共創という視点でやっていきたいと思っています。

にこっとは、6月末から1か月ぐらい閉館します。2階に文化展示ゾーンをつくるということになっていますので、何かやっているなど思っていただけだと思います。そして2階の勉強スペースを1階に降ろす作業をさせていただきましたが、多少ご意見をいただきましたが、ご理解をいただいているところだと思います。

スポーツ関係の共創で盛り上げる市制20周年ということで、いろんな仕掛けをしていきたいと思っています。

組織機構について、皆さんと関わりがあるものとしては、幼稚園保育園課が幼児教育保育課となり、これは去年の総合教育会議で、幼児教育がいかに大切なのかということを議論いただき、幼児教育、保育というキーワードを入れさせてもらいました。今後、小学校と幼稚園の連動・連携をやっていただきたいと思っています。

あと文化財課に歴史観光担当を置きましたので、地域の歴史のことをもっとも地域の子どもたちに理解してもらおうということと、観光にそれをつなげるということを考えて組織改編しています。

それでは皆さん、それはどうなっているのか、などありましたらお願いします。

委員

昨日あすなろで、子どもたちがハチミツ絞りをしたり、みんなで授業を一緒にしたりしているところを見て楽しそうに過ごせる場が外ではなくてもいいのではないかと思いました。校内にもそんな場があってもいいのにと思いました。

市長

今回、拡充のような形で書かせていただきましたが、理想は全学府につくって通えるようにすることです。校区に関係なく使えるようにすることは大事だと思うので、そこまで予算をかけずに実施をお願いしたいと思っています。

委員

一般会計予算ですが、令和7年度は多いですが、向陽学府の一体校などもある中で、推移を見ると右肩上がりですか、中期的には、令和8年、9年度も800億を超えるぐらいの金額を考えていらっしゃるのでしょうか。税込等の兼ね合いもあると思いますが。

市長

800億いくかどうかは何とも言えないと思っています。でもそもそも100億円は減るので、一度760億円が最低ベースになって、それプラスどのくらいマイナスになるか。消防署が来年どのくらいになるかだと思っています。

委員

前々からスタートアップの支援を強化していたと思いますが、浜松で関わっている人が支援を受けて会社を立ち上げたりしている人がいるのですが、どんな感じでしょうか。マッチングとか、ラボの貸出しをすとかででしょうか。

市長

実は色々なメニューがありまして、スタートアップというか、この磐田にオフィスを立ち上げるという前提で来てくれる企業は結構な補助金が出ます。それをもって支援という言い方もできますし、今あるシェアオフィスのなところを使ってもらうということに対しては、実はあまり補助のようなものではなくて、でも場所としては、二之宮に東京から企業が進出してきてくれまして、貸しオフィスのような、シェアオフィスのような形で使えますし、はじまりのオフィスのコワーキングスペースを使ってもらう中で、色々な補助メニューを使ってもらうというやり方はあるかと思えます。スタートアップ企業と市内企業のマッチングは、磐田に今ないスタートアップ企業を持ってくるという発想で、そこに対して実は補助がないので、少しメニューはつくらなければならないと思っています。若者たちに選ばれる会社をどんなふうを増やしていこうかと考えています。

委員

磐田市はスポーツを通したまちづくりをしまして、子どもたちへの一斉観戦などやっていただいております。みんなでスポーツを楽しむ、折

角、ジュビロ磐田があるので子どもたちが全国大会を見られるとか、もっと磐田でスポーツを盛り上げる活動とか体験してもらおうとか、そういうことでまちづくりをしていきたいと思っています。何かいいイベントがないかと思います。

市長

外向きに発信できるものは、ジュビロマラソンぐらいです。あと全国大会の誘致ということで、少し補助金も今年多めに付けていまして、実際、サッカーの高校生年代の裏インターハイのようなことを夏にやってくれている団体がありまして、そもそも夏は暑いからオフィシャルには大会を開くことができなくて、非公式でやっているのですが、インターハイの決勝で負けていくチームがあるではないですか。決勝で負けたチームは、インターハイに出るお金も時間も空けてありますので、そのチームを磐田に呼んできて試合をしようということを取り組んでくれます。そういう取組も、裏側ではやっています。市民向けには、スポーツ健康フェスティバルをもっとわくわくさせていくということがいいのではないかと思います。あとは、ぜひ何かあれば教えていただけるとありがたいと思っています。例えばバレー協会もいろんなイベントをやっていますよね。もっと何か変えていって、スポーツで生き活きとしたまちづくりができたらと思います。

今朝もグランドゴルフを150人くらいの方がやっていました。かなり気合が入っていました。見え方や、やっているということが伝わっていくといいと思います。

他はよろしいでしょうか。

(2) 教育大綱・「磐田の教育」道しるべ・こども憲章について

市長

それでは、次のテーマへ移ります。教育大綱、磐田の教育道しるべ、こども憲章について、本日それぞれ所管する担当課に出席してもらっていますから、まずは政策推進課からご説明いただきたいと思います。

政策推進課長

磐田市教育大綱は、平成27年8月に制定され、その後、何度かこの総合教育会議で議論されましたが、4月の選挙で市長が2期目に入っていますので、今回改めてご協議をお願いするものです。

まず、教育大綱の拠りどころは、平成27年4月1日施行の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律となります。大綱の策定は、第1条の3に「地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとする」とあり、「地方公共団体の長は、大綱を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、総合教育会議において協議するものとする」とされています。また、総合教育会議は、地方公共団体の長が招集すると規定されていますので、事務局については企画部政策推進課が務めています。

なお、令和4年度の第1回総合教育会議での協議では、「『こころざし』だけで」という意見もありましたが、「もう少し分かりやすく」「使い方については、エ

夫していく」とお話しされています。

ここで、参考までに近隣3市の大綱を資料としてご用意していますが、本市では、独自の「6つの理念」を軸とした市の教育施策の基本的方針とし、制定の趣旨などを記した前文を含めて、教育大綱としています。そして、大綱の中ではなく、教育委員会で策定した”「磐田の教育」道しるべ”と、市民でつくりあげた”磐田市こども憲章”を基にしていることから、この2つが、どのように要素として盛り込まれているかという構成表を作っています。

一方、この3市は、子どもへの教育に加えて、生涯学習という用語の記載や、期間が設けられています。いずれも平成 27～28 年度にかけて制定していますが、2市については一度、見直しされています。

本市の教育大綱は、制定から 10 年目を迎え、市長の2期目に入りましたので、これからの市の教育施策の基本的方針として、ご意見をいただきたいと思えます。

市長

続きまして教育総務課からお願いします。

教育総務課長

「磐田の教育」道しるべは、平成 25 年7月の校長会で教育長の発言から教育目標につながる教え、標語みたいなものを考えたらどうかというようなご意見がありまして、翌月の定例教育委員会で「磐田の教育」標語について協議を開始した経緯がございます。

この目的といたしましては、教育目標に向かって目指す姿を明らかにして、この姿を見童生徒や保護者、また地域が共有していくこと。それから 2 点目として教育目標達成に向け、学府・各校が道しるべを意識することで、磐田の教育にさらに主体的に参画し、実践することを目指す。それから 3 点目が道しるべから市民一人ひとりが具体的な取り組みを創造していく。このような狙いをもって策定されたものであります。

策定にあたっては、学校現場や定例教育委員会事務局に募集をしまして、教育委員、学校、幼稚園の代表、教委事務局のメンバーで絞りこんでいく手法がとられました。約 270 件の応募作品から 12 件に絞られたと聞いてございます。

市長

それでは、こども未来課からお願いします。

こども未来課長

磐田市の「こども憲章」と「未来へつなぐみんなの心得」について、これまでの経緯と今後の方針をご説明させていただきます。「こども憲章」は、平成 27 年に制定されました。この憲章を制定した背景としては、子どもたちを取り巻く環境が、大きく様変わりしてきたことが挙げられます。核家族化が進み、家庭や祖父母、地域の方たちから礼儀作法を学ぶ機会が減りましたし、地域でも、子どもに声をかけ、時には注意してくれる大人が少なくなりました。さらに、デジタル化の波は子どもたちの生活を一変させ、便利なコミュニケーションツールである一方で、ネットトラブルや生活習慣の乱れといった新たな課題も生んできました。この

ような状況の中で、幼児期から高校までの期間は、人生の基礎・土台を築く最も重要な時期であり、家庭・地域・学校・社会が一体となって、子どもたちを支える必要があるとの思いから、合併 10 周年に合わせて「こども憲章」を制定しました。

「磐田の大地を踏みしめ ともに手をつなぎ 明日を楽しみにたくましく生きよう」この理念のもと、磐田の子どもたちが夢と希望を持ち、家族やふるさとを愛し、自分自身も大切にしながら、誇りを持って生きることを目標としました。そして、この理念を実現するための具体的な行動指針として「未来へつなぐみんなの心得」を制定しました。「かけがえのない命を大切にしよう」「あいさつをしよう、あいさつを返そう」など、12 項目からなる心得です。制定過程では、178 名の小中高生が参加する「こども会議」を開催し、子どもたち自身の声を大切にしました。また、教育関係者による制定委員会の開催や市民からの意見募集など、様々な立場の方々のご意見を反映させました。

そして今年、合併 20 周年を迎えるにあたり、「未来へつなぐみんなの心得」の改訂を予定しています。この 10 年で、子どもたちを取り巻く環境は、さらに多様化していますが、10 年前に掲げた「みんなの心得」を今のこどもたちはどう受け止めているのか。その声をしっかりと聞きたいと考えています。改訂の中心となるのは、今年度から新たに立ち上げる「こども若者会議」です。10 年前の制定時は、中学生までを中心に話し合いましたが、今回は小学 5 年生から 20 代までと対象年齢を大幅に拡大しました。より幅広い世代の声を反映させる予定です。

また、10 年前と同様に、磐田市内の子どもたちの声を、広く聞く場も設けるよう計画しています。

また、新たな「未来へつなぐみんなの心得」は、市制 20 周年記念式典において披露する予定です。この改訂により、変化する時代に対応しながらも、磐田らしさを大切にしたい新しい心得を作り上げて参ります。

市長 それでは、説明について、ご意見・ご質問とかいいただきたいと思います。

委員 こども憲章を見直して心得のネーミングを変えるということですね。

こども未来課長 「磐田の大地を踏みしめ ともに手をつなぎ 明日を楽しみにたくましく生きよう」は、そのままに、その下にあります行動指針の「未来へつなぐみんなの心得」の 12 項目を見直していきたいと考えています。

委員 こども憲章という名前はそのままですか。

こども未来課長 このままです。

市長 変えるでもいいですよ。ここで例えば、道しるべと一緒にしてしまうとか、ゼロベースで考えてどんな選択肢もフレキシブルに考えていきたいと思っています。

委員	道しるべとこども憲章は一緒にしてもいいかなと思います。ずっと同じような感じだなと思っていたので、1つにすることもありかなと思います。
委員	児童憲章とかこども基本法ができてきて、こどもの権利条例もあるし、似たようなものが多いなと思います。私は、道しるべが大好きです。子どもが道しるべの資料を持ってきた時に素晴らしい取り組みだなと思いました。こども憲章があることを親たちが知っているのかなと思います。
市長	道しるべは知っているということですか。
委員	見る機会は多いです。旗で交流センターに立っているし、昔は月に1回メールで配信されていました。
市長	それは教育委員にのみ配信されているものではないですか。こども憲章は憲章幕をつくっていますが。
委員	教育委員になる前からメールが届いていました。いわたホッとメールでした。
市長	教育長、何か見解ありますか。
教育長	道しるべも平成26年に学校を巻き込んでつくってしまっていて、自分も教育委員会にいたのですが、その後、自分も学校現場で、朝礼や校長の話などで触れるような場所はつくってきたと思います。ただ、子どもたちの目線からすると少し言葉が難しいというところもあったり、子どもたち自身が自分事に捉えるような感じになると良いと思ったのは事実ですが、やはり人間としての理念なので難しいものでした。
委員	<p>市がPRし始めたときに教育委員になりましたが、何回も何回も検討して、1人、3つずつくらい持ち寄って思いを込めてつくられています。それと並行してこども憲章ができて、同時期にいいものができてしまいました。教育委員会制度が変わって、教育大綱をつくらなければならない時に、磐田は道しるべができていたのでそこから抽出して作ったものが大綱になっています。道しるべと憲章がなければ大綱だけにして文言をつけるとすれば、浜松市や袋井市のような形になるのかもしれないけど、生い立ちが違うので、道しるべとこども憲章と大綱を関連付けるのは無理やり感があると思います。道しるべと憲章を切り離した方が良いと思います。</p> <p>それから憲章の方は見直したほうがいいかなと思います。「携帯を夜間に使うのはやめましょう」といった言葉もありますが、今ではもう、家でタブレットを持ち込んで勉強する子ども当然いるので、そういうことも含めて時代に合うものにした方が良いと思います。</p>

委員	「共創」って言葉も入れた方が良いでしょう。
市長	友達と互いに助け合うことがこども憲章には入っていますが、道しるべには入っていないくて、共創や助け合いとか、個性を認め合うなどの多様性の部分が抜けていることが気になりました。今の時代、スマホやAIなどをうまく使えなければいけない時代ですから、そこをどう表現したらいいかと思います。こども憲章は10周年に作っていますので10年ごとに見直しができますが、道しるべは定期的な見直しのタイミングがありません。教育大綱は、首長が変わるタイミングに見直しが見られるものでいいと思います。今回、教育大綱は正に共創という視点も入っていませんし、前文を見直すイメージで考えています。あとは理念の部分の整理が必要だと感じています。
委員	礼節とかわかりやすいですかね。敬愛とか。
教育長	礼節は道しるべの中になかったと思いますが、他はあると思います。「いのち」や「こころざし」を平仮名にしているのには意味があるのだろうか。
市長	道しるべは今変える予定とかないですか。
教育長	今のところはありません。市長がおっしゃるタイミングというか、その見直しのきっかけもなかなかありませんが、自分のイメージとすると大綱が大きくあってもう少し細かいところが道しるべになると自分の中ではそのような落とし込みをしています。もちろん憲章もそうですが。
市長	ただ筋からすると、委員がおっしゃることが十分に理解できるし、先に道しるべがあったのは、十分に説明しないとわからないです。普通にいけば大綱があって道しるべがあると思いますので。
教育長	そういったところもありますが、資料としては、大綱があって、道しるべとこども憲章がある形にしています。
市長	それですっきりさせたいですね。
教育長	多様性とかっていうのは、「いのち」という平仮名の中に、全部入っていて生徒の命だけでなく一人一人を認め合うとか、一人一人の存在をきちんと受け止めるとか。自分はそんな理解をしています。
市長	前回大綱つくったときって、どのくらいかかったかわかりますか。

教育総務課長	1年くらいです。
市長	事務局が作ったというよりも、委員さんがつくっていったものでしょうか。
教育総務課長	ゼロベースで委員さんが考える形でつくっていきました。
市長	逆に言うと、ゼロベースでつくるのだったら、どんなものになるのかこのメンバーでやらなければいけません。結果的にもう一回作り直したらこれがベストだということになればこれでいいと思いますし。絶えずスクラップ&ビルドではありませんが、もう一回、今の私たちの感覚で今の子どもたちの社会を見て、一番ベストな言葉なのかどうか。道しるべもそうですし、こども憲章もそうですし。こども憲章は見直しすることが決まっていますが、あちこちに書いてしまっているから、印刷物を変えなければいけません。正直言って大変です。
教育部長	こども憲章は、駅にもありますから
委員	あとは、にこっとなど。
市長	大綱はスクールバスの後ろにありますね。ポスターなら剥がせばいいですが、お金がまたかかってしまいます。
教育部長	こども権利条例をつくる時の一般質問の部課長会で、市長が条例をつくれればいいと言ったときに、既に同じようなものが何個もありました。それらを整理しなければいけませんし、つくった人には、つくった人なりの思いがありますから、それを整理をしてからつくりたいと言いましたが、条例は進んでいきました。変えるにしても、くっつけるにしても、つくった人からするとものすごい思いがありますので、タイミングからすると、市長がおっしゃるとおり、この20周年の時にこども憲章をいじるのなら、道しるべも何かいじるべきだと個人的には思います。また、この20周年を逃すとまたタイミングがなくなってしまうと思います。教育委員会が覚悟を持って取り組むことができるかだと思います。
委員	他の市は、大綱の中に道しるべのようなものを入れているではないですか。そのようなのではダメなのではないでしょうか。条例などたくさんあると思いますので。
市長	やはりたくさんあると思います。ただ、考え方によっては、使い分けることもできると思います。例えば、大人がつくる道しるべで、子どもをこのような環境で育てていきたいということと、こども憲章は、子どもが決めた子どものルールのような、意味合いを完全に分けて教育大綱の中に入れ込むのはありなのかもしれません。本当は、教育大綱は、その下に施策をつけていかなければいけません。 このようなことを言っているのだな、このようなことを政策的に予算をしっかりと

	付けてやっていきましょう、というぐらいがベストなのです。
委員	そうするとわかりやすいです。
企画部長	予算の裏付けにもなります。
市長	プロジェクトにして予算の裏づけにするということをやっている市もありますね。
教育長	そのようにする方が多いです。
市長	今決まっているのは、こども憲章は確実に見直すということで、今のやり方はどちらかというと先ほど言った子どもが決めた子どものルールづくりというのが主になっているのではないのでしょうか。道しるべは、残すのなら残すで。例えば、このタイミングで見直しをスタートしましたが、結果できたのは1年後など、別にそれでいいのではないかと思います。そこは、逆に言うところこの教育委員会のメンバーで、もう1回道しるべについて、しっかりと言葉を選びながら作り直してみようということをやってもらうこと、教育大綱もそうです。しっかりと今から1年間くらいかけてじっくり見直していこうということでもいいのではないかと思います。 教育大綱は、どのくらい浸透していますか。
委員	実際にはしていません。学校に貼ってあったりしますが。
教育長	家庭の方になかなか届かないですね。
市長	コドモンに出したことはありますか。伝え方にもよると思います。もし、道しるべをもう一回作りましょうと言ったときに、逆に今の皆さん、教育委員4人だけでやっているのでは大変ですから、PTA などを入れてプロジェクトチームで少しやってみましょうかなど、それでも悪くないと思いますし、そんなに予算をかけなくてもできると思います。
教育長	道しるべをどのように活用するかというか、その理念や考え方がないとまた大綱があるということになってしまいます。
委員	私は大綱から降りるように整理した方が良いと思います。道しるべと、こども憲章に降りるように。そこまで整理した方が良いと思います。大綱も私は減らした方が良いと思います。6つ覚えろと言っても覚えられませんのでせめて3つ、個人的には1つです。つくられた方の思いもあると思いますが。
市長	培其根というところは絶対大切にしたいと私も思っています。ただ、正直言って培其根からとったことが、どこにも書いていませんから、これは伝えるしかありま

せん。そのようなこともどこかに書いておいた方がいいのではないかと思います。この前文に、教育者の東井義男先生からとっているのだとかがないと、「培う」ってなんだろうと必ず疑問になりますから、そのようなところも整理して、これを1本にするのか3本にするのか。そこからどうやってぶら下げるような書き方にするのか。全くそれは抜きにするのか。何回かやりながら決めていければいいと思います。次回までにそれぞれ言葉をつくってきてもらったり、色々考えてきていただければと思います。

教育部長 こども憲章の見直しはいつ頃完成しますか。

こども部長 完成発表は11月です。

教育部長 市長が先ほど言った大人の意見、子どもの意見ということで、こども憲章を子どもの目線で作ったものの完成形を見て今年度の教育委員会が見てつくっていくというのもいいと思います。いずれにしても変えるという方向で進めてもいいのではないのでしょうか。

企画部長 そもそも道しるべが欲しいのかっていう観点から、見直しに入るのいいのではないかと思います。

教育長 大綱もあって、道しるべというこの関係性がどうなのかという、位置づけがはっきりしないと、つくることが先に目的になってしまいます。

市長 いずれにしてもこども憲章はやるということは確定していますし、目的は子どものルールを子どもが考えて、それはそれで必要だという整理でやってきたはず。むしろ大綱の目的を整理すべきだと思っています。総合的な施策の大綱を定めることとするという法律があるではないですか。これをどうやって読み取ってやってきたのですか。

教育総務課長 決まりはありません。大綱をつくることになっていますが、国から見本のようなものが示されるということが一切ありませんでしたので、それぞれの思いを持ってつくっています。磐田市は、道しるべとこども憲章が存在していましたので、それを統合するような形で、理念的、普遍的なものを述べてつくらせてもらった感じです。

委員 当時のことを思い出すと、磐田市は理念的なところを大事にしてきました。その前に作成した市町は、どちらかというと理念より施策、物を作りますとか、このような行動をしますとか、そのような大綱が多くて、それは少し違うのではないかと話し合って理念の方向でつくっていました。その後で、他の市町から磐田のがいいということになった流れがありました。ただ、他市を見るともう少しみ砕いて繫

がりがこちらの方が上手につくられていると感じますし、特にプロジェクトなど分かりやすいと感じます。

市長 それで予算もそのまま進められます。

委員 「培う」は残す、でいいと思います。

市長 「培う」は残すでいいと私も思っていますので分かりやすくしていけばいいと思います。今、見直ししましょうという方向性で結論が出たと思います。それほど急いでやらなくても、じっくりある程度時間をかけてやってもいいという結論も出たということと「培う」ということは一本柱として大切に、ここに何かぶら下げていこうというあたりまで決まったと思います。道しるべは道しるべでこれは総合教育会議のテーマではありませんので、教育委員会の中でもう一回整理してもらいまして、逆に言うと我々が口出ししにくいところですので、目的も含めてもう一回整理してほしいと思います。こども憲章はこども憲章で、これは今日のテーマではありませんが、市長部局としてこれもやっていきますということで報告いたします。

政策推進課長 今後、今回の論点を整理したいと思います。

市長 全体を通して皆さん、ご意見はございませんでしょうか。

委員 条例もできましたし、国の方も文部科学省とこども家庭庁など、どこがイニシアチブを取るのかというところが、曖昧になっているというか、どうなっているのかと迷うような、子どものことはみんなで考えようということなのだろうと思います。よく言えばですが。だけど、どこが決めるのかということが分からないことが不安というか、大丈夫かなと思っています。とにかく全部でやっっていこうという共創になるのだと思います。全部で関わっっていこうということですが、誰が何を考えるのかということが不安だと感じます。こども憲章はこども部ですよね。こども憲章は、こども部で、道しるべは教育委員会ですが、大綱は市長部局など、自分の中でよく分からなくなってきました。

市長 確実に言えるのは、もう全て総合教育会議だと私は思っています。それがずれるとずれてしまうと思いますので、この総合教育会議がすごく大事です。今回のこども憲章、道しるべ、教育大綱の3種類をまとめて話をしている総合教育会議は多分全国でもなかなかないのではないかと思います。

教育長 こども条例をつくったり、こども憲章をつくったり、どのように生かしながら家庭や社会に浸透させていくのか、そのような文化を作ってもらえたらいいと思います。多分同じ方向を向いていると思います。ただ教育委員会からすると、やはり義務教育が中心になってしまうのかもしれませんが、やはり一緒に作っていくという

	ことだと思います。
市長	こども憲章は、教育委員会は関係ない感じでしょうか。
こども部長	前は、教育委員会が入った形で作っています。
市長	今回は、どういったことを考えていますか。
こども未来課長	入れていきたいと考えています。
市長	では、協議事項はこれにて終了したいと思います。ありがとうございました。
政策推進課長	事務連絡になりますが、次回の日程については改めて調整させていただきますので、よろしくお願いします。以上で、令和7年度第1回磐田市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。